

共生・協働の地域社会づくり

鹿児島県内で元気に共生・協働に取り組む団体を紹介します。

▼平成18年4月25日にグランドオープンした「かのやばら園」。



平成14年8月にスタートした鹿屋市の「ばらを活かしたまちづくり」。行政と市民が対等な関係で作り上げ、現在民間団体として中心的な役割を担っているのが、NPO法人ローズリングかのや。

昨年4月に「日本一を誇るばら園」として、それまでの約3倍の8haに拡張された「かのやばら園」内で受付・案内業務やカフェ食堂、売店経営、各種体験講座の開催など、運営全般を行っている。

また、春、秋に開催される「かのやばら祭り」では実行委員会の中心となって、週末毎に多彩なイベントを開催し、市民ボランティアとの協力で、1カ月以上にわたる

ばらを活かしたまちづくり

◎ローズリングかのや

鹿屋市

NPO法人

《問い合わせ》0994(41)8718

長期イベントを支えている。

「苦労と言えば睡眠不足かな。食事も食べられる時にとるんですよ」と豪快に笑い飛ばすのは、専務理事の神菌清広さん。専従の理事として運営の中心的役割を担い、以前から培ってきたさまざまなアイデアをかのやばら園の運営に活かしている。

「NPO法人として継続運営を行っていくには経営感覚も大事」と、毎週の理事会開催や会員向けの情報提供を心がける。日頃仕事を抱える理事も多いため、理事会は毎週木曜日の早朝6時半から行うことが多く、運営・PR業務に加え、会計資料の作成も自ら行うなど多忙な日々を送る。

常駐スタッフは約15人程度。約300人の会員と多くの市民ボランティアの協力を得て、活動の幅は広がっており、平成18年11月には、地元酒造メーカーや行政、団体と二緒になって開発した「かのやばら園」で育てたばらを使用した焼酎「薔薇の贈りもの2006原酒」を発売するなど、企画と実行は続く。

鹿屋市の「ばらを活かした

▼ばら焼酎やキュールなどオリジナルの新商品開発の企画も積極的に行っている。



▲ガイド研修の様子(まちづくりを支える「ばらのまちサポーター」の皆さん)。

まちづくり」では、ばらづくりに取り組む人材育成を行っており、育つリーダーを中心とした市民ボランティアが市内各地で植樹活動を展開するなど、地域と行政、NPOの共生・協働の取組が広まりつつある。

「行政でしかやれない仕事と民間でしかやれない仕事の間にある『おまかせ』の部分の担っているような、しっかりとした法人として活動していきたいですね。NPO法人としての将来を見据えたビジョンも明確だ。

事務理事 神菌さん

日本一を誇る「かのやばら園」にぜひお越しください!

<http://www.baranomachi.jp/>

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進室（県庁市町村課内） ☎099-286-2241
 ◎共生・協働センター（かごしま県民交流センター内） ☎099-221-6605
 関連情報は、県ホームページの「共生・協働（NPO・ボランティア）」にも掲載しています。

▼熊本で行われた人権講演会で講演する徳丸さん。



鹿児島市

NPO法人

《お問い合わせ》 ☎099(254)7360

◎いじめ対策プロジェクト

いじめの追求より、心を救いたい。

「今はどんなにつらくても、希望を持っていけば、必ず明るい未来が来る」。NPO法人いじめ対策プロジェクト代表徳丸洋子さんがいじめに悩む子どもたちに伝えたい言葉だ。

今でこそ、NPO法人を立ち上げるほど行動力のある徳丸さんだが、小・中学校時代につらいいじめを受け、それを克服した経験を持つ。出産時に受けた心の傷が原因でPTSD（心的外傷後ストレス障害）にもなった。そのことがきっかけとなり「複雑な心理のメカニズムを知りたい」と通信制

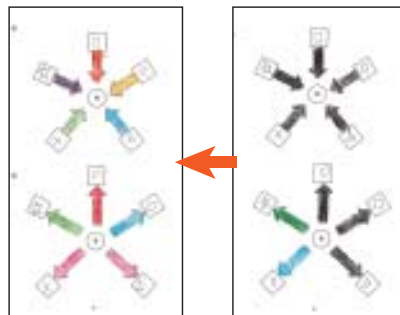
の養成講座で心理カウンセラーの資格を取得。同時に「いじめに悩む子どもたちを救いたい」という一心から、いじめ対策プロジェクトをつくった。2003年のことだ。最初は1人でホームページをつくることから始めた。心理学教室、講演、心理カウンセリングなど、少しずつ手

探りで活動を広げてきたが、まだまだ世間に知られていない小さな活動だと言う。

そんないじめ対策プロジェクトの活動で、今年、熊本県や長野県の教職員研修で採用され注目され始めているのが、「多角的自己表現法」を使ったリフレッシュ法だ。

徳丸さんは自分の経験から、いじめを受けていることを親や教師に相談するのがどんなに難しいかわかっている。つらいいじめのことを話すことなく、楽しい方法で悩んでいる心を軽くすることができたら…。

そんな思いで考案されたこの「多角的自己表現法」は、12色の色鉛筆やレターセットを使って、図形に色をぬったり、手紙を書いたりすることを通して、自分の気持ちや周囲の人との関係を視覚化する方法だ。もやもやした感情を視覚的に整理することで、心がすっきりし、明るくなるという。この方法は、



▲「多角的自己表現法」を体験し、対人関係を表す色が暗い色から明るい色に変わった例。

プロジェクトが定期的に開いている「いじめに悩む小中高生のためのやさしい心理学教室」で50人以上が体験している。最初は、暗い色で表現されていた子どもたちの感情が、1時間半の講座が終わるころには明るい色に変わる。徳丸さんが喜びを感じる瞬間だ。

ほとんどの子どもたちが「気持ちが悪くなった」「もやもやしていたものがすっきりした」「希望が持てた」という感想を寄せている。徳丸さんは「これでいじめが解決するわけではないけれど、自殺は止められるかも」と、手応えを感じている。

今後、いじめ対策プロジェクトが目指すのは、学校や行政との連携。「いじめの解決は学校と家庭の取組だけでは限界がある」と思います。私たちのようなNPO法人や地域の人たちと互いに助け合うことが必要では」と考えている。

徳丸さんは話す。「わたしたちの取組は新しいもので、それだけに可能性は未知数です。もともとたくさん子どもたちと直接触れあって、1人でも多く悩んでいる子どもたちの助けになればと思っています」。

「多角的自己表現法」が本になりました。収益はいじめ対策に活用します。



代表 徳丸さん

「多角的自己表現法」を鹿児島発のいじめ対策法として全国へ広げたい。
<http://ijime-taisaku.net/>